「同じ家は、つくらない」をキーフレーズに着実に成長

働く女性が活躍。女性の視点で家づくり

首都圏を中心に、名古屋、関西で戸建分譲住宅を手がけるのが三栄建築設計だ。1993年に創業し、2012年には東証一部に上場した。同社取締役執行役員生産本部長の千葉理恵氏は創業メンバーであり同社の成長を支えてきた。「お客様の立場になった家づくりのために、女性の視点を大切にしたい」と語るその取り組みについて、ジャーナリストの福島敦子氏が聞いた。

千葉 理恵
Rie CHIBA
三栄建築設計 取締役執行役員 生産本部長
1993年、三栄建築設計入社。取締役設計工事部長などを経て、現在は取締役執行役員生産本部長兼商品管理室長および工事部長を務める。グループ内では三建アーキテクト取締役、三栄クラフター代表取締役、アンズ・デザイン・ワークス代表取締役を兼任。

福島 敦子
Atsuko FUKUSHIMA
ジャーナリスト
津田塾大学卒。NHK、TBSで報道番組を担当。テレビ東京の経済番組や、日本経済新聞、週刊誌、経済誌など、これまでに700人を超える経営者を取材。経済・経営をはじめ、環境、コミュニケーション、農業・食などをテーマにした講演やフォーラムでも活躍。上場企業の社外取締役も務める

福島　御社の業績を拝見すると、経済状況が厳しい時期も含め常に右肩上がりの成長を続けてこられています。強さの要因はどこにあるのでしょうか。

千葉　一口で言えば、いい家をつくり続けてきたということ以外にありません。リーマンショックのときにも増収増益を達成しました。厳しい環境であっても、必ず家を購入する人がいます。他社ではなく当社で買っていただくために、お客様に響き、選ばれる家づくりをやってきた結果だと自負しています。

福島　御社は「同じ家は、つくらない」というコーポレートメッセージを掲げています。その思いを教えてください。

千葉　当社のこだわりは、お客様の希望を探り、それを実際の使い勝手や間取り、デザインなどで表現することです。たとえば、中庭、リビングの吹き抜け、ベランダなどがある家とない家では、大げさでなくライフスタイルも変わります。

　一般的な住宅メーカーでは、土地の仕入れ、設計、施工、販売などの担当者が決まっていて、設計担当者は実際の土地を見ないで設計するといったことも珍しくありません。しかし当社では、更地のときからチーム全員で見に行って、この土地にはどんな家がベストなのか、全員で議論します。分譲住宅ですが、注文住宅と同じつくり方なのです。

福島　なるほど、お客様にとってはそれが望ましいことは明らかですが、企業が効率性を優先すれば、同じパターンのものを造るほうがコストを抑えられますね。

千葉　確かに、同じパターンなら品質検査なども楽でしょう。でも、それではお客様に多様なライフスタイルを提案できません。たとえば、20棟の分譲住宅が並んでいて、どれも同じ間取りなら、一つ見れば十分です。当社なら20棟のすべての設計を変えます。一棟一棟のベストプランは異なるからです。そうなると、お客様は「次にどんな家ができるのか」と楽しみにされます。当社の物件の多くが早期に完売する理由もここにあります。

　また、当社は現在、年間1600棟を手がけており、その数は年々伸びています。このスケールメリットがあるため、同じパターンでなくても、施工のコストなどを抑えることができています。

福島　住宅では女性が決定権を握ることが多いですね。その点で、御社では創業当初から、千葉さんが中心になって女性の目線で提案をされてきたことも成長の要因なのではないですか。

千葉　私だけでなく、全社員がお客様の

制作・東洋経済企画広告制作チーム

対談

interaction

三栄建築設計

働く女性同士、共通する話題も多い２人

生き生きと活躍する女性社員たちに囲まれて

立場で考えるように指導してきました。若い設計者の中には、独身で、自分で台所に立った経験がない者もいます。４人家族に必要な食器棚はどれぐらいの大きさなのか、電子レンジやゴミ箱はどこに置くのかといったことを、具体的にイメージさせるようにしています。「あなたは本当に、自分が設計したこの図面の家に住みたいと思うのか」と突き返したことも何度もあります。

福島　今でこそ女性の設計者や施工管理の方を見かけるようになりましたが、千葉さんが入社されたころはまだ珍しかったのではないでしょうか。設計工事部長などを務められ、子育てと仕事を両立する苦労はありませんでしたか。

千葉　現場では職人の方たちの中に紅一点ということがほとんどでした。でも職人の方も、男だから女だからというのではなく、納得すれば快く動いてくれます。みんないい仕事がしたいのです。社内でも自分の意見はストレートに言うほうです。さらにやりたいことはあきらめません。社長にも「いいことなのでやりましょう」と何度も提案して決まったこともあります。家庭と仕事の両立は、めりはりが大切です。私は中学生と高校生の子どもがいますが、毎朝お弁当をつくり、夕食の準備をして出ます。短時間で仕事をこなすコツは身に付けましたね。

福島　現在、私も企業の社外取締役を務めていますが、政府も女性の役員や管理職への登用を施策として掲げるなど、働く女性を取り巻く環境が大きく変わってきています。千葉さんは取締役として、どのような考え方で経営を行っていますか。

千葉　やはり、私も取締役なので経営的な発想ができなくてはならない。私の場合、会社が始まった頃はいつ倒産してもおかしくない状態でしたから、自分の力がどの程度あるかというよりは、仕事一つひとつに対して真剣に取り組み、どのように利益を生むかをつねに意識していました。社長とも話をよくしていたので、自然と経営的な発想が身についていきました。組織や体制などいろいろな変化に対応しなくてはならないときに、自分の意見をしっかり聞いてくれて実行できたのは、社長のおかげだと感謝してます。若い女性たちも自分の意見を大事にしてほしいですね。

福島　すでに千葉さんというロールモデルがいらっしゃるので、女性社員の方もキャリア設計を描きやすいと思います。

千葉　多様な人材が活躍できる環境をつくり、それをお客様への提案に生かしたいと考えています。

お問い合わせ
三栄建築設計　東京都杉並区上荻1-2-1 インテグラルタワー 4B　TEL:03-5335-7233